

# なんかい

NANKAI

vol. 123

2021.8

南海寮 広報委員会

熊本県天草市本町下河内1685番地の1

TEL 0969-23-3850

FAX 0969-22-4977

Mail keiyukai@cup.ocn.ne.jp

URL <http://www.nankaiyou.or.jp/>



グラウンドで流行りのデイキャンプの雰囲気を楽しむ利用者さん

## 理事長就任・施設長就任の挨拶

理事長 松浦 郁太

この度、6月の理事会にて理事長に就任しました。昭和50年初代の酒井正次郎理事長から4代目となり、啓友会の舵取りの重責に身が引き締まる思いで力不足ではありますが、先人達の築いて来られた歴史と風土を守りながら、さらなる発展の為、誠心誠意努める覚悟です。

知的障害者更生施設として定員60名でスタートした当法人も丸46年経過し、南海寮（入所60名・生活介護70名）、通所センターあひむ（生活介護20名）、GH13名、短期入所5名、相談事業（特定・児童）、日中一時、レスキュー事業を経営・運営するまでに発展してきました。今後も地域のニーズに応えサービスの質の向上はもちろん、事業内容の拡充にも取り組んでいきたいと考えています。

開設当初より、利用者の為の施設づくりを基本に於いて運営を進めてきました。今、誰もが住み易い社会を、共生社会の実現をと警鐘されており、社会福祉法人の果たす役割は大きいものがあります。当法人もその一担が担えるよう、職員一丸となって福祉の向上に取り組み、地域にとって、また社会に必要とされる法人を目指し邁進していく所存でございます。

いますので、今後とも関係者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

施設長 松浦 光毅

7月1日付けで施設長の職を拝命致しました。スタッフと共に力を合わせ、衆知を持ち寄り、情熱を持って、より一層のサービス向上と地域福祉の向上に努めて参ります。

7月1日の朝、利用者さんにもご挨拶をさせて頂きました。すると、これまで前施設長（現理事長）に直接来ていた利用者さんからの様々な要望や相談（部屋を替えてほしい、帰省はできないのか、誰々さんを注意してほしい等）は、その日以降私にくるようになりました。理事長も常勤で出勤しておりますが、利用者さんは目もくれず、気にも掛けずです。その点に関しては、利用者さんも良い意味でドライですし、私個人というよりも「施設長」という称号がそれだけ利用者さんにとっても大きな意味を持ち、期待されている重要な立場・職責であることを改めて認識しております。利用者さんから急に見向きもされなくなった理事長は「ただの人になった…」と少し寂し気でした（笑）

## 支援の現場から

支援内容や取り組み等をご紹介します。

### 強度行動障がい者への支援について

サービス管理責任者 松浦 徳彦

現在、当法人では強度行動障害支援者養成研修（基礎）を生活支援員として働く全ての職員に受講していただいております。加算等の要件を満たすためという事もありますが、何よりも行動上の問題を抱えた利用者に対しての正しい理解と知識、適切な支援が必要だからです。

「頭を激しく打ちつける」「周囲の人を叩く」強度行動障がいのある方を支援していて「なぜ？どうして？」といった疑問を抱く支援者は少なくありません。ましてはその行動が自分や他の人を激しく傷つけるような行動となると、不安や緊張、時には恐怖心すら感じることもあるかもしれません。感じた不安や緊張といった感情の根底は表出した行動問題の理由や意味が理解できないためだと思われまます。しかし始めは誰もが通る道です。だからこそ学んでいく必要があります。もし理解できないまま支援すると、本人への介入を避けようとしていたり、不適切な支援をしたりと良い支援へと繋がっていきません。ではどうしていけば良いか。まずは本人を知る事だと思えます。行動

上の問題がどういった時に表出したのかや、その行動のきっかけは何だったのかなどアセスメントする作業が必要だと考

えます。次に障がい特性を学び環境要因として構造化していくシステムづくりに取り組んでいきます。しかしその支援が始めから上手くいくとは限らず、かえって行動問題を激しくさせてしまうケースだってあるかもしれません。しかし、支援した結果それが逆効果になってしまっても職員を責めてはいけません。軌道修正すれば良いし「本人さんの事が一つ理解出来たから良かったね」と声を掛けるようにしています。私自身も一人で行動問題を解決できるほどスペシャリストでもありませんし、正解なんてわかりません。一人で考えて分かなければ周囲の人にアドバイスを求めるべきだと思えます。その為に皆が研修を受け、底上げを図り、難しい問題や課題にはチーム支援で取り組んでいかなければならないと思えます。何より行動上の問題を抱えている当事者の方がそういう行動でしか表現できず、辛い思いをされている事を理解し、その思いを受け止め寄り添える支援を目指していきたいものです。

### Sさんの支援について

生活支援員（副主任） 金子 史

Sさん（40歳女性）は支援学校卒業後に、就労継続支援B型事業所に就労し、自宅より路線バスを利用し通われていました。3年前に南海寮の短期入所の利用を開始、1年程前からはグループホームに入居、現在もグループホームから事業所まで路線バスで通われています。

Sさんは自分の持ち物にこだわりがあり、利用当初からバックを5〜6個（10kg以上）抱えて通勤していました。中は本や洋服等です。あまりの荷物に両手はふさがり、もちろん傘もさせず、雨の日はずぶ濡れになって戻って来られていました。どうか荷物を減らす事はできないかと、本人さんと一緒に荷物の整理を行い、バックを一つ減らしてみます

が、すぐに元に戻るの繰り返しでした。試行錯誤しながらも、ある日新しいリュックサックと肩掛けバックを購入。その日もちょうど雨で、いつもどおり濡れて帰って来られました。当然バックも濡れています。S



さんの許可を得てバックの中身を整理し、せつかなので新しいバックに替える事を伝え、何とか5つあったバックを2つに入れ替える事に成功。Sさんも始めは少し戸惑った様子でしたが、他の職員から「似合うよ」等と声を掛けられ照れながらもうれしそうな様子でした。その後もバックが増える事はなく、どうにか2つの荷物で収まっています。ある日、バスの乗客の方がSさんを見て「最近あの子の荷物もすっきりして、きれいになったね。」と言ってくださり、私達も嬉しく思いました。

グループホームでの生活も慣れ、朝からは朝食を運んだり、世話人さんの手伝いを率先して行われています。また、休日はテレビを見ながら他の入居者の方と談笑したり、歌番組を観て一緒に歌ったりと楽しく過ごされています。Sさんはクイズ番組が好きで、テレビを見ながらノートに解答を書いたり、絵も上手で職員の似顔絵を書いてくれます。笑顔が素敵なSさん。今後も笑顔あふれる生活が送れるよう支援していきたいと思えます。





# 創立記念食事会



# 祝 46 周年



# ひらやま衣類販売



良く似合ってますよ♪ 外出が楽しみです！





# ビアガーデン



## 皆で夏を楽しみましょう♪



## オンライン研修 奮闘記

相談支援専門員 山本富喜子

皆さんは、「オンライン研修」という言葉を知っていますか。オンライン研修とは遠隔にいる講師と受講者が、インターネット回線をつなぐことでオンライン上で行う研修の事です。従来の研修会とえば、会場に行つて他の事業所の方と直接意見交換をしたり、講演会を聴いたりしていたのですが、オンライン研修だと会場に行かなくて良いというのだから驚きです。では、オンライン研修をする為には、何が必要となるのでしょうか。

まず、準備するのは、カメラ付きパソコンとインターネット環境、オンライン研修に必要なソフトウェアのダウンロードや設定等が必要です。私自身、初めてオンライン研修を受ける際、設定や接続等の方法が分からず、上司に設定してもらいました。そして迎えたオンライン研修会当日、パソコンの前に座り、画面とひたすらにらめっこ。カメラに写る自分の顔は恐らく強張っていたと思います。初めてで慣れない研修会という事もあって、パソコンから聞こえる開催側のアナウンスにきちんと対応できるのか、操作を間違えたらどうしよう…等、

不安や緊張でいっぱいでした。実際に、「音量をミュート(消音)にしてください」と開催側が言われるのに対し、操作方法が

すぐに分からなかったり、多くの方が参加している中、いつ発言して良いのかタイミングが難しく、他の方と声が被ってしまうというハプニングもあり、終了ドキドキでした。

このような感じでなんとか初めてのオンライン研修会は終わったのですが、その後何度かオンライン研修を重ねるうちに、操作方法や参加方法が分かり、デジタル化の良さも少しずつ分かったように感じます。オンライン研修であれば、場所を問わずどこでも参加でき、遠方の方でも参加できる事、色んな人と繋がる事ができる等、従来の対面研修では体験できない利点が多くあると思います。

今後時代と共にデジタル化が進み、新しい物が登場してくると思います。その時分からぬ部分からお手上げ!ではなく、分からない部分は専門家や分かる人に尋ねながら、ICT(情報通信技術)やIC(集積回路)を取り入れ上手に活用する事で、業務の省力化や利用者のサービス向上に繋がっていききたいと思います。

## いつでも、どこでも学べる オンライン研修サービスの活用

係長 松本かおり

令和3年度、研修委員会の新たな取り組みとして、障がい者支援施設向けのインターネットを利用したオンライン職員研修サービスを4月から導入しました。導入に当たっては、①コロナ禍で外部研修への参加が少なくなった為、内部研修に役立てたい。②気軽に勉強する機会を提供したい。③制度や支援方法をわかりやすく伝え、支援者のスキルアップを目指したい。④職員全体の育成に役立てたい。との目的がありました。

講座のコンテンツとしては、①障がい特性、②利用者支援・技法、③福祉サービス・制度、④リスクマネジメント、⑤経営・運営等の5分野に分かれており、また、初任者から、ベテラン職員、管理職等の階層にも分類してありますので、視聴する側、

育成する側も使いやすい内容となっております。パスワードを入力すれば、職場でも自宅でもスマートフォン・タブレット・パソコンのいずれからも受講可能であり、気軽に視聴する事ができ、時間の有効活用になります。実際、事業所内の新人研修や虐待防止、強度行動障害支援者研修の場にも

使用しました。15分の動画を視聴し、その後、グループワーク、全体で発表する等ふりかえりの時間を設けました。研修会後の感想としては「短時間でまとめるから分かりやすかった。本を読んだりする事が苦手なので動画だとありがたい。15分で見れるから良い。繰り返し見れるから良い。今の自分の支援を振り返る事ができる。支援のヒントになるかも。隙間時間に視聴してみます。」等の声も聞かれており、導入を主導した者としては、良い反響があり、喜んでいきます。

私も8月には、組織の成長マインドに関する研修がテーマとなっておりますので、このWeb講義を使用し行う予定です。何度も視聴し、何を伝えたらいいのか。何を伝えるべきなのかをしっかりと検討し、周囲にも相談しながら方向性を決め、開催したいと思っております。

まだまだ事業所として自慢できる活用ではありませんが、導入したものをフル活用できるように、活用する機会を作ったり、発信を続けながら、障がい福祉のミッションの理解、スキル・技術、専門能力の向上など、よりよい支援の確立、働きがいの醸成、仕事への誇り、利用者満足度の向上に繋がるようにしていきます。



## あいむだより



ある日、「ランチ外出楽しかったよねーまた行きたいなあー」と利用者さん同士の会話が耳に入りました。なんとか楽しみを作れないか？とスタッフで話し合いを行った結果「そうだテイクアウトしよう！」というアイデアが生まれ、あいむテイクアウトシリーズ第一弾（続くかな…笑）はみんな大好き牛丼のテイクアウトとなりました。事前にアンケートを取り食べたいメニューを決めてもらいました。一番多かったのは「牛丼」でした。やっぱり定番は強いですねえ。次に「うな丼」。元々うなぎが好きな利用者さんからの熱烈的な支持がありました。そして次は「カルビ丼」です。やみつきになる甘辛ダレが人気の理由でした。食べる際に少しでも雰囲気味わってほしいと思い、真ん中の空間を開けてカウンターっぽくしたり、そこから提供したりし、さあ！牛丼屋～通所センターあいむ店の開店です。あいむ店オリジナルメニューの「自分たちの畑で作った野菜たっぷりみそ汁」が食べれるのはあいむ店だけです。（笑）

皆さんニコニコして来店され注文されていました。事前に支払いをしてもらい、金銭学習も頑張ってもらいました。中には某牛丼店のCMを歌われる方もおられ、楽しまれていました。

コロナ禍で皆さんの楽しみを考える中で「○○だからできない」と考えるのではなく「できるようにするにはどうしたらいいか」と考えるきっかけやヒントを頂いたと感じています。これから夏に向けて、みんなでアイデアを出し合いながら次の楽しみを計画していこうと思います。

浦上 寛司

### ■新任職員

倉田 一平（生活支援員）、門東 大輔（生活支援員）

江浦 遼（作業療法士）、坂口 幸子（調理員）

### ■退所利用者

浦中 一美 様（上天草市）



### 夏野菜を育てよう！

南海寮では毎年、夏野菜の苗を育て販売していますが、販売時期が終わり、残った苗を有効活用するため、寮内のハウスの一角で野菜の栽培を行っています。きゅうりに茄子にピーマンと夏野菜がすずなりに実っています。利用者さんの中には自分で野菜を育ててみたいと希望される方がおられ、食育の一環としてミニトマトのプランター栽培を勧めると喜ばれ、水やりや様子観察等熱心に取り組みされました。お陰で今年の夏は沢山のトマトを収穫することができました。

### 編集後記

2021年も折り返しが過ぎましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

6月28日は南海寮の「災害の日」でした。昭和54年6月28日に前日まで降り続いた雨の影響で寮近くの斜面が崩れ、生活に危険が生じたため利用者さん全員で本町の東向寺さんに避難することがありました。以来、当時のことを忘れないよう毎年6月28日は風水害訓練を行っています。

昨年の熊本豪雨に続き、今年も熱海で土砂災害があり、毎年のように全国で死者を伴う災害が発生しています。災害はいつ自分たちの身に降りかかるかわかりません。テレビ等の報道で被災された方のインタビューを聞くと「まさかここでこんなことが起こるなんて…」と話されていることがあります。普段から防災意識を持つことの大切さがわかります。南海寮でも災害用の備蓄品を管理しています。皆さまも備品を揃えたり、点検等をしていただければと思います。竹崎栄喜

### 今後の予定

8月10日 物故者参り

9月2日 夕涼み会（利用者・職員のみで開催）

10月 ご家族面談会（予定）